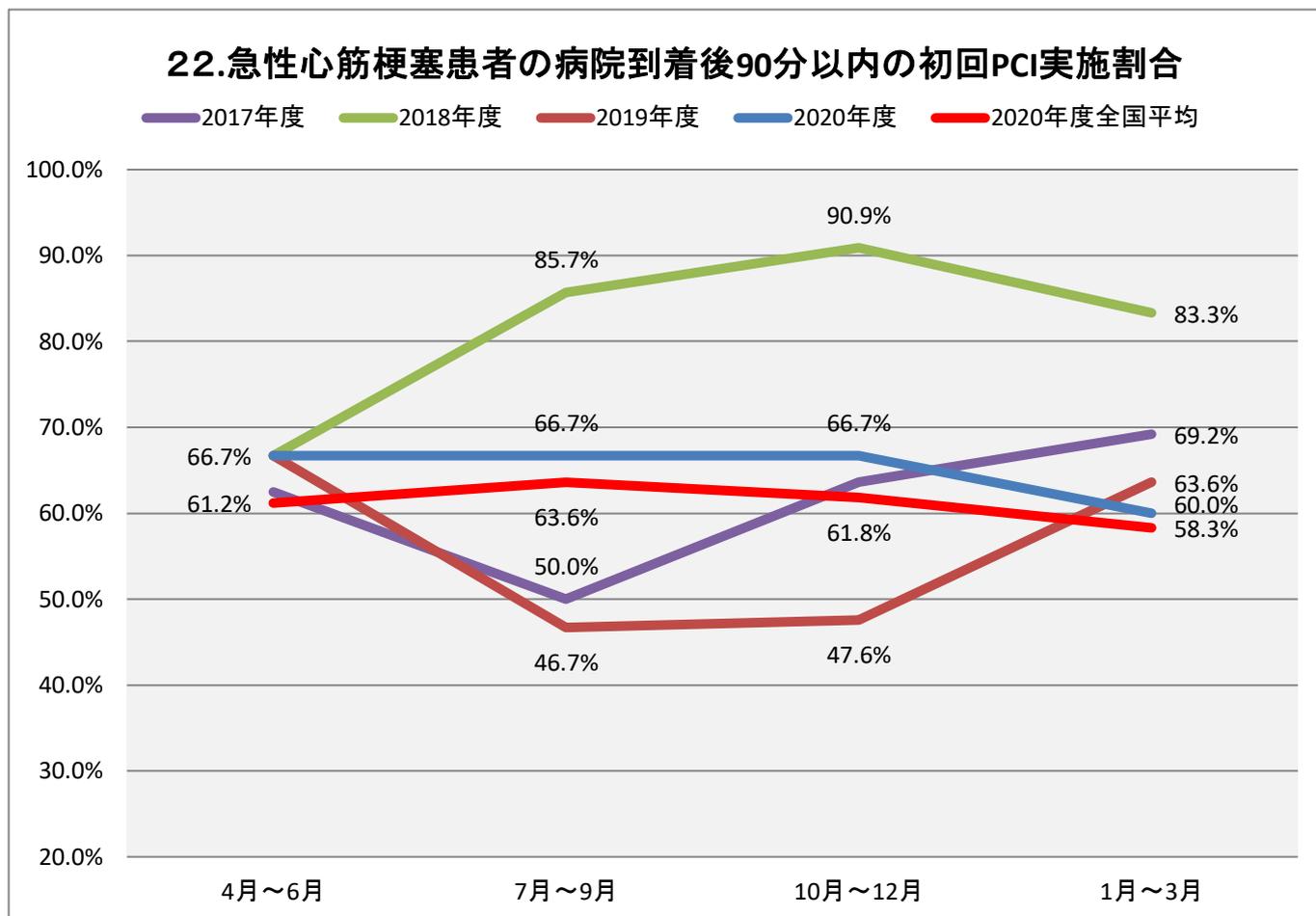


22.急性心筋梗塞患者の病院到着後90分以内の初回PCI実施割合

(1)調査結果



| 調査期間 | 4月～6月 | 7月～9月 | 10月～12月 | 1月～3月 |
|------------|-------|-------|---------|-------|
| 2020年度 | 66.7% | 66.7% | 66.7% | 60.0% |
| 2019年度 | 66.7% | 46.7% | 47.6% | 63.6% |
| 2018年度 | 66.7% | 85.7% | 90.9% | 83.3% |
| 2017年度 | 62.5% | 50.0% | 63.6% | 69.2% |
| 2020年度全国平均 | 61.2% | 63.6% | 61.8% | 58.3% |

(2)指標の説明

急性心筋梗塞の治療には、発症後可能な限り早期に再灌流療法を行うことが、生命予後の改善に重要です。現在、発症後12時間以内は早期再灌流療法の適応とされ、主にバルーンやステントを使用したPCIが行われます。また、血栓吸引療法を併用する場合があります。病院到着(door)からPCI(balloon)までの時間は、急性心筋梗塞と診断されてから、緊急心臓カテーテル検査と治療のためのスタッフならびにカテーテル室の準備、さらにPCIの手技までを含む複合的な時間であり、door-to-balloon時間と呼ばれます。具体的にはdoor-to-balloon時間が90分以内であること、あるいは90分以内に再灌流療法が施行された患者の割合が50%以上という指標が用いられます。

(3)定義

分子: 分母のうち、来院後90分以内に手技を受けた患者数
分母: 18歳以上の急性心筋梗塞でPCIを受けた患者数